

令和4年11月(2022年) No.683

自己満足で終わっては勿体無い

会長 合原一夫

映像作品は、自分の作った作品に自己満足しては勿体無い。人様に見せて、その人が“楽しい作品だなあ”とか“見せてもらってよかった”とか“感動した”とか、第三者が感じてもらえる作品にまで仕上げることで真の意味での映像作品創りの醍醐味である。

過去に元OMC会員に鳥好きな人が居て、毎回鳥の up 画像に鳥の名前を付けた作品を持ってこられた方がいた。相当苦労し時間をかけて超望遠レンズを付けたカメラで撮影されているので、鳥も UP できれいだが、探鳥会で上映するなら受けても、一般の人が見ても一種の凶鑑のようにしか感じられない。あとの喫茶店での雑談会に「あの鳥は非常に珍しく、あの鳥を撮影するのに何日も通った」とか「半日粘ってやっと撮れた鳥」とか、色々興味のあるお話をされるのだ。何で、そんな苦労話が作品で表せないのか、とってしまう。作者本人は自己満足で終わってしまい、第三者に披露して喜んで見て貰える、という視点が欠けている事例である。私達の映像趣味人間は、自分の作品を自己満足で終わってしまうのでは楽しみ半分で勿体無い。自分の作品で人様にも楽しさを分け与えるような作品にまで高める工夫と、もうひと踏ん張りの努力と知恵が求められる。

秋は映像作品の為の被写体が増える季節である。紅葉にしろ、祭りにしろ、第三者が見て「作者が何を伝えたいのか、ポイントは何か」が判るような纏め方をすれば、きっと楽しく見て貰えると思う。単なるキレイキレイの中でも、何かポイント、印象に残る伝え方というものがある筈である。

来年の OMC フェスティバルに向け、年に1本でもいいから、これぞ我が自信作、というものを作ってほしい。

11月例会ご案内

- 第2例会；第3木曜日17日、13時より
- 通常例会；第4土曜日26日、18時より 於 難波市民学習センター
楽しいひと時を過ごしましょう、どうぞお集りを！

予告

- 幹事会：12月24日(土) 13:00～
- 世話役会：12月24日(土) 15:00～

第26回大阪アマチュア映像祭

入場制限下だが

まずまずの盛会で無事終了

去る11月6日（日）、大阪アマチュア映像祭が、大阪市立中央図書館と大阪アマチュア映像連盟の共催で開催された。コロナ禍のため、今回も入場者は、90名限定のため、230件余りのご案内をして、応募総数は、130件ありました。厳選抽選の結果、スタッフ26名、一般入場者90名を当選者としたところ、17名の欠席者がでました。結果的には、一般入場者73名で、スタッフを合わせて総入場者数99名になり、秋の行楽シーズンの最中、ましてコロナ禍の中では、まずまずの成果を上げたことと安堵した次第です。また、中身については、各クラブ、力作の作品がそろい、観客の皆さんには、ご好評のお声をいただきました。運営にご協力いただいた、大阪中央図書館はじめ、スタッフの皆さんに、感謝とお礼を申し上げます。

大阪アマチュア映像連盟 事務局 岡本至弘

まだコロナ過が第7次だとかで、毎日大阪府下でも何千人という人が感染しているというニュースが続いている。それでも、ひと頃の感染症に対する恐れは減ったようで、街の人出は元に戻ってきた感がある。

今回の大阪アマチュア映像祭は、中央図書館より、入場制限数を90名に抑えるよう指示があった為、前回通り申し込み制にせざるを得なかった。先着順にしてもらえたら随分と手間と経費も助かったのだが、こちらとしては指示に従うほかない。

プログラム同封の入場希望ハガキを芳名簿にしたがって配布、結果、定員を大きく超過する参加希望のハガキが寄せられた。止むを得ず抽選の結果、残念ながら十数名の方には落選通知を出さざるを得なかった。

又、大阪アマ連所属の会員さんは全員スタッフ扱いとし、ロビーのテレビで見て貰うほか、客席に空席が出た場合は中に入ってもらう手段を取った。これも落選者を少しでも減らそうとする苦肉の策なのである。もともとスタッフ扱いの方は、入場者の体温測定や手指の消毒、入場券の有無確認、連絡先電話番号の記入漏れが無いかの確認、遅れてきた人の案内等の実務を担当して頂いた。運営が上手く出来たのも関係スタッフの協力があったゆえだと感謝したい。

もともと本来ならば入場希望者全員を、喜んで迎えたいところであるが、さて来年3月19日（日）に予定している「日本を縦断する映像発表会」は、又定員制限が行われるか、気がかりだが、コロナ過が一向に下火にならない今は諦める外ないか。

会長 合原一夫



10月例会レポート

10月例会は第4土曜日18時より、いつもの難波市民学習センターにて開催。12名の出席者と8本の作品が出品、岡本氏の司会で進行。このところ比較的暖かい日が続いて紅葉も遅れるのではないかと思われるが、例会に集うのには気持ちいい季節ではある。二次会共々楽しいひと時であった。

- 運営担当：司会 岡本、書記 紙本、YouTube 関係 江村、映写 坪井、中川メモリー記録 江村、受付・照明 森下、宮崎の各氏
- 出席者：岩井、江村、大久保、紙本、合原、上総、高瀬、坪井、中川、宮崎、森下、山本の12氏
- 上映作品（今月の書記は紙本氏）

1. 中之島美術館モニュメント BD 中川 良三 9分15秒

（作者コメント） 中之島美術館でモデルアーニ展が開かれているので、美術館を訪れた。天王寺美術館に次ぐ大阪の代表的な美術館が出来て開館を楽しみにしていた。展覧会もよかったが美術館のモニュメントが非常に印象的だったので編集してみた。



（書記コメント） まず、特殊カメラが立ち並ぶ建物の風景に迫力を与えます。そして今年2月に開館したという真黒の壁面の美術館、なぜか宇宙服の様なものを着た猫の彫刻が際立つ。館内の裸婦像ほかの絵画、そして、ジャイアント・トラヤン、最後ハンケイ京都新聞で火を噴く。成程印象的だったに違いないと思われま。

2. 越木岩神社 BD 紙本 勝 10分40秒

（作者コメント） 西宮市にある神社の前身は、延喜式神名帳に、大国西神社と記される古社で、大きな甕岩（コシキイワ）がご神体であり、古代から磐座信仰の聖地であるという。毎年秋の、子供の成長を願う「泣き相撲」は有名らしく1～3歳の豆力士が800人以上も集まるそうだが、親御さんのカメラに遠慮して、撮影はうまくゆかなかった。



3. ショート・ショート BD 坪井 仁志 9分30秒

（作者コメント） 30秒程度の超短編映像、映像スケッチ12本まとめて収録しました。普段ながめている風景も映像に残すとまた違った印象を受けて新鮮な風景に見えてきます。



（書記コメント） まさに短編映像の連続です。主に作者のお庭を行き交う船舶等の映像と時候の挨拶、終わりは尾張大橋と木曾川、そして揖斐川、さらには新らしい眺めという事ながら、12本にクレジットタイトルがつき日めくりをめくるような感じで、得意な手法なのか、難解でもありました。

4. 玉野市営電鉄 BD 江村 一郎 7分30秒

（作者コメント） 以前の作品「宇野港」で市営の鉄道があったことは知っていたが、今一場所の特定ができていなかったのが今回改めて全線を巡る。玉野市の由来が玉ひめ神社が発祥となり玉に宇野の野を足して玉野市になった。又この電鉄は水島方面への延長計画もあったが昭和47年の廃止で夢と消える。



（書記コメント） 宇野駅から玉遊園地前駅まで13駅、4.7kmの廃線跡を取材されています。廃線跡は

概ね道路になっているようですが、街中の風景や駅跡の処理は手慣れたもので、映像を見ただけで往時の様子を想像することが出来る作品で何時ものことながら感心させられます。

5. わが故郷 築後紀行 B D

合原 一夫 16分35秒

(作者コメント) 私の故郷は九州は福岡県柳川市である。柳川は掘割りが縦横に流れ、観光用の舟が行き交う城下町でもある。周りは田園地帯、米作が中心。又、有明海に面し、海の幸にも恵まれている。この作品は今から44年前の昭和53年に制作された私にとって懐かしい作品だ。当時まだ走っていた国鉄も廃線となっている。現在とは違った当時の風景もあるが基本的にはあまり変わっていない。柳川は「廃市」として小説の舞台になって市民を怒らせたことがあったが、一方「言い得て妙」の一面もあった。



(書記コメント) 44年前の映像とか。柳川と言えば、私は柳川の舟下りくらいしか知らないが、周辺の農業地帯や有明海などの様子が伺えます。年数が経ち今では変わりもあるのですが、変わらないのは故郷に対する思いなのでしょう。

6. 長尾街道 B D

山本 正夢 11分50秒

(作者コメント) 堺から奈良の長尾神社まで寄り道せず迷わなければ30kあり2日で歩きました。竹内街道ほど有名ではないけれど古代からの重要な官道でした。



(書記コメント) 街道歩きを何時もの通り詳細に紹介されており飽きる事はありません。映像を見る限りスムーズに運んでいる様ですが、地図を見ながらでも慣れない道は、外れが付きもの、30kmを40km近く歩いたとおっしゃることが私の経験から大変な苦労があるのがよく理解できます。古代の道には遺跡がありそれが映像化されていて、街道歩きの魅力でもあるのです。

7. 那智勝浦巡礼 B D

上総 秀隆 10分00秒

(作者コメント) 平成31年3月に始めた西国三十三ヶ所巡り。コロナの影響もあって途切れがちだが、ようやく第一番札所那智山青岸渡寺(なちさんせいがんとうじ)の御朱印をもらうことができた。



(書記コメント) 西国三十三か所の巡礼も車だと早いのですが、電車・バス・徒歩などでは結構時間がかかります。映像は大部分が寺院までとホテルでしたが巡礼とありますから今少し寺院に時間を割かれたらよりよかったですと思われる。私が巡り終えたのは昭和46年、信仰心はともかく、目標の結願の日迄巡礼の旅をたのしまれたら如何でしょう。

8. ずいき祭 B D

高瀬 辰雄 10分00秒

(作者コメント) 京都の秋祭りの先陣を切って、10月1日から5日間行われる北野天満宮の祭礼です。神輿を野菜や果物、穀物で飾り、屋根を里芋の茎、ずいきで葺くことから、ずいき祭と呼ばれています。4日の還幸祭を撮影しましたが祭りの行列は氏子が町内を隈なく回るため4時間、5~6キロの距離を歩く。歩くとかなりハードなので、自転車と並走し、撮影しました。



(書記コメント) 五穀豊穰を喜び感謝する祭りにふさわしいのが、ずいきで飾られた神輿が先導する還幸祭なのではないでしょうか。鳳輦・松鉾なども加わる大行列で5~6kmも歩くという。これは大変、それも自転車を使用されたそうですが苦労された事でしょう、おかげで祭りの内容がよくわかる作品でした。